

第九回留学報告書

河野遥希

2025 年 7 月 7 日

MIT の経済学部 PhD プログラムに所属しております、河野遥希です。4 年目が終了しました。2025 年前半の活動をご報告いたします。

1 研究

もともと PhD は 6 年計画で考えていたのですが、来年の 5 月 = 5 年目の終わりに卒業しようかなと思い直しました。ということで、9 月からは本格的に就活することになりそうです。経済学アカデミアでは、job market paper (JMP) と呼ばれる、PhD での集大成となる論文を名刺代わりに携えて、学生がマーケットに出ていきます。当然、就活の結果は JMP の出来に大きく左右されるので、みんな時間をかけて JMP を仕上げていきます。私も、3 月ごろから、quantile regression に関するプロジェクトに取り組んでいます。現在は、これまでに得られた結果を色々な先生に話してフィードバックをもらいながら、第一稿の仕上げをしている段階です。7 月中には、人に見せられるぐらいの状態にまとめる予定です。

JMP 以外では、8 月にソウルで行われる会議で、前回の報告書でも触れた、消費者の合理性についての論文を発表します。少し前に、この論文で使った数学の結果を短いノートにまとめたのですが、それが先日 [ここ](#) で出版されました。これは、よく使われるある種の偏微分方程式の解の存在と一意性、安定性についての結果です。この結果自体は、数学者の間では (暗に) よく知られたものですが、既存の教科書、論文で述べられているものは、上記の合理性の論文に適用するには少し弱いものでした。このノートは、スタンダードな結果を、合理性の論文に適用できるように少し一般化した形で述べて証明したものです。

2 その他

引き続き、ゴルフにハマっています。毎日素振りしています。

PhD 生活も最終盤に差し掛かっていますが、お陰様で充実した研究生生活を送ることができています。深く御礼申し上げます。